

第364回放送番組審議会

1 日 時 2016年4月19日(火)14時～15時30分

2 場 所 tvk 第1会議室

3 委員総数 8名 出席者8名 欠席0名

出席委員; 山田一廣委員長、布施勉副委員長、白石俊雄委員、林義亮委員、二宮務委員、伊藤有壱委員、五大路子委員、吉川知恵子委員
tvk;中村社長、押川取締役、熊谷コンテンツ局長、武内プロデューサー、玉村編成部長

4 議 題 (1)放送番組

資料:①4月のタイムテーブル

②4月～5月の特番一覧表

(2)視聴合評

地域情報番組「あっぱれ! KANAGAWA 大行進」

2016年4月16日(土)午後8時55分～9時50分

(3)その他 報告事項

・視聴者対応

報告期間:2016年4月4日(月)～2016年4月14日(木)

・第363回(3月)放送番組審議会の議事報告

(「猫のひたいほどワイド」2016年4月12日放送VTR)

5 議事内容 2ページ以降に記載

6 審議期間の答申または改善意見に対してとった措置及びその年月日

7 審議機関の答申または意見の概要を公表した内容・方法及び年月日

(1)2016年5月2日(月)「猫のひたいほどワイド」(12:00～13:30)の

「放送番組審議会からのお知らせ」コーナーで審議内容を司会者が報告

(2)審議概要を当社インターネットホームページに掲載

玉村編成部長

定刻前ですけれども、揃いましたので、山田先生お願いします。

山田委員長

それでは、始めさせていただきます。九州熊本で大きな地震がありまして、たくさん犠牲者が出ました。今日現在でもう40名を軽く超えるということで未曾有な被害を被っております。日々新聞に目を通しテレビ画像を目で追っていますと、被災した方には大変気の毒なんですけれども、東日本大震災の教訓がほとんど生かされていないなということを感じます。たとえばせつかくの救援物資が地方自治体の方でなかなか仕切れていない。また日本を代表する自動車メーカー2社が、部品が揃わないということで、製造を一時ストップするということがあります。これは東日本大震災以後、BCP、事業継続計画というのがありまして、これが大変クローズアップされて、大きな震災の時に操業できるということを念頭に掲げてやってきたんですが、結局はそれも教訓が生かされていないような状態です。この首都圏にも大きな地震が起こることは十分想定されます。そのときに熊本の教訓を生かさなければいけない。東日本の教訓はもっと生かさなければならないという状況になると思います。そのために地方自治体、企業は日頃から十分注意していただいて、尊い命をまず守る方策に力を注いでいただきたいなと思っております。ちょっと硬い話になりましたけれども、では第364回目の番組審議委員会を始めさせていただきます。中村社長の方からお願いいたします。

中村社長

はい。どうも、中村でございます。本日もお忙しい中ありがとうございます。今委員長からもありましたように、木曜日の夜に結果としては前震がありまして、それほど大きな被害が出てなくてよかったな、というふうにも思っていたんですが、その後土曜日未明に本震ということで。私共もいわゆるL字対応ということで、私共も取材の限界がありますので、基本的には共同通信からのニュースを逐次流していく対応をさせていただきました。そうした中で、私共もレ

ギュラー番組が土曜日に「サタミンエイト」というこの4月から始まった番組と、その後に「あっぱれ！KANAGAWA大行進」という、ともにバラエティ的な番組でしたので、「どうしようか」ということで判断を仰がれまして、基本的に中止するのもおかしい、やりましょうと。ただその中では、特に神奈川の関連という意味では、東海大農学部で被害を受けている学生さんも亡くなったりということもあったので、本当に熊本、そして大分の方々へのお見舞い、そしてニュース速報的なことをちゃんとするようにということを示して、いつも通りの実施ということにさせていただきました。それにしても、委員長が今おっしゃったように、鬼怒川決壊のときもそうですし、もちろん3.11の時もそうでしたけど、本当にここ神奈川の地でああいうことが起きたら、どう対応できるんだろうかということ、また改めて感じた次第です。それに向けての、今出ましたBCPという部分も策定はしつつありますが、まだまだ充実を図らなくては行けないということも、また思った次第です。本日もよろしくご審議のほど、お願いいたします。

山田委員長 ありがとうございます。それでは本日の議題に沿って進めたいと思います。まずお手元の4月のタイムテーブル、4月5月の特番一覧表を参照していただきながら、放送番組について事務局からお願いいたします。

玉村編成部長 では、お手元の4月の番組表と、本日は加えまして「2016年4月編成」という冊子を一部ご用意させていただきました。特番一覧表と併せましてご覧ください。4月の番組表につきましては、表紙がプロ野球ベ이스ターズ中継をアピールするもの、裏側は「しゃかりき」という中高生の部活動を紹介する番組を紹介しています。中面をご覧くださいまして、こちらの面は4月にスタートする新しい番組をフィーチャーしたもので、こちらについては冊子の方をご覧くださいながらご説明いたしますので、ご覧いただけますでしょうか。「2016年

4月編成」ということで、私共としては今年「話題になる番組」・「話題になる編成」というものを目指そうということを掲げております。それにしたがって、いくつかの方針を掲げ、いくつかの番組の改編をいたしました。そのうちの一つが、ここに書いてあります「猫のひたいほどワイド」です。長くやっていた「ありがとッ！」という番組を全面的にリニューアルしました、お昼の生放送番組です。これが月曜から木曜の12時から1時半まで。こういう番組を4月の4日からスタートしました。それから併せまして、私どもとして初めて土曜日の夜に生放送、「サタミンエイト」。サタデーに8、それにビタミン。「サタミンエイト」というタイトルで、お笑いの次長課長の井上聡さんをMCに加えて、土曜の夜8時から放送しております。めくっていただきましてこちらのページですが、同じく土曜日にオートバイの関連番組を始めることになりました。「Ride & Life」という番組で土曜の夜10時半から。その次「saku saku」。これは新番組ではございませんが、一部リニューアルしまして、出演者が変更になっています。ポンモップというお人形さんを操縦していた中身の人が代わりまして、このふたり、上々軍団というお笑いタレントさんになります。これも4月の4日からのスタートです。めくっていただきまして、次が「神奈川ビジネス Up To Date」。この番組は昨年スタートさせまして、今年で2年目です。放送時間を変えてみました。木曜夜10時に放送していたものを、月曜夜9時に替えました。データ等いろいろ見ていたところ、夜10時よりも夜9時の方が一般的に見ている方の数が多いということ等がございまして、月曜夜9時に放送時間を変更しました。併せまして土曜日の夜11時に再放送を設定いたしまして、同じ内容になりますが週2回放送しまして、よりたくさんご覧いただけますように、ということトライしております。その次のページがプロ野球中継です。ここは昨年の試合数よりも、先だって社長からもお話がございましたように、2試合

多く、32試合。すでに3月29日のジャイアンツ戦からスタートしています。チームの成績は皆さんご存知のとおりですけれど、横浜スタジアムに入っているお客さんの数は、以前に比べると非常に良いと思っておりますので、今後のチームの成績には期待しております。その次のページはレギュラー番組をいくつか載せておりますので、割愛させていただきます。その次のページ、「座頭市物語」、「チャーリーズエンジェル」。他社からの購入等で放送する番組をいくつか、新しく取り揃えております。金曜日のお昼には在宅者が高齢者ではないかという仮定のもとに、以前から考えておりましたけれども、時代劇を長い時間編成をしてみました。それから過去のもので「チャーリーズエンジェル」。それから「キスのカタチ」という非常に人気のあるシリーズのリメイクもの。中京圏で人気のあるボーイズグループ「BOYS AND MEN」という男性アイドルグループの出演によるドラマです。次のページは皆さんご存知の「ウルトラマン」ですとか「プリキュア！」。ウルトラマンは夜遅い時間です。「プリキュア！」については朝8時アニメ枠での放送です。最後のページはデータ放送についてです。dボタンを押して天気や何かを見るというのが一般的ですが、この4月から朝時間帯に限りまして、自動表示ということで、テレビをつけますと必ずこの画面になるという取り組みです。たとえばここに書いてございますのは、「京浜東北根岸線が運転見合わせ」といった場合に、こういうふうに出てきます。何の異常もないときは「特にない」というふうに出ます。これを4月4日からスタートさせております。dボタンを押せばこの表示が消えます。またコマーシャルの間は入れない仕組みで、これを4月からスタートさせてみて、視聴者の皆様の反応を見ていきたいと思っております。簡単ですけれども、4月の番組編成全体についてご説明をいたしました。

山田委員長

はい、ありがとうございました。事務局から4月の番組について説明がありまし

たが、これについて何かご意見ご質問等がございましたら。

五大委員 「ニュース930α」は、何か変わりましたか。今までと同じですか。キャスターもみんな同じですか。

玉村編成部長 そうですね。出演者は特に変わっていないんですが、天気予報をウェザーニューズから気象予報士さんを昨年から招いて、自分の声でしゃべってもらっているんですが、気象予報士さんが交代いたしまして、今度は男性です。

五大委員 個人的にファンなので。

玉村編成部長 え、誰の。

五大委員 ニュースの。はい、失礼いたしました。

玉村編成部長 引き続きご覧いただければ。

山田委員長 他にございませんか。

玉村編成部長 新番組について、もしフォローすることがありましたら、コンテンツ局長から。

熊谷コンテンツ局長 はい。今、玉村部長から話がありましたが、「猫のひたいほどワイド」と「サタミンエイト」という番組が新たに始まりました。以前「ありがとッ！」という番組の後継として「猫のひたいほどワイド」という番組です。ご覧になっていただくと、皆さんご趣味はそれぞれあると思いますが、イケメン揃いということで、一応我々スタッフが、これからの若手のイケメンを揃えてMCにさせていただき、それから今回入りました岡村という新人女性アナウンサーをメインMCとしまして、お伝えする情報番組です。今までの「ありがとッ！」の視聴者の皆様は当然残しながら、イケメンの、まだ新人とはいうもののフェイスブックで多い方は1万人ぐらいのフォローがいらっしゃる方々ですので。若い方々30代から40代の主婦の方々も、しっかりと見られる情報番組にしていきたいと思っております。是非一度、ご覧になっていただければと思っております。それから「サタミンエイト」という番組に関しましては、先ほど話が出ました通り、今回次長課

長の井上さんをMCに起用しています。初めての起用ですので、ご覧になっていた方は、まだまだ不慣れな部分があると思いますけれども、基本的には大人の情報番組ということで、ちょっとコアな部分を、ちょっとくすっと笑って見ていただいて、興味を持っていただける内容にしたいなと思っております。1回目はDeNAベ이스ターズということで大物を題材としてあげたんですが、2回目はナポリタン。今後は「トンネル」というタイトルであったり。今、ちょうど廃墟ブームや工場見学ブームがありますので、そういったところを大人の皆さんに、何となく楽しんでいただけるような、お酒を飲みながらご覧になっていただけるような内容にしたいな、と思っております。以上です。

山田委員長 ありがとうございました。他にご意見等ございましたら。

白石委員 これ、あれですかね、このイケメン4人。一人ブ男を入れるとかっていうことは。

熊谷コンテンツ局長 そこまでまだ勇気がなくて、最初は。今後はMCは替えませんが、後ろにもレポーターが3人ずついるんですね。それもそんなにめっちゃめっちゃイケメンではないんですが、そこにお笑い担当ではないですが、イケメンの中でも一般の方に近いような方も入れてはいますが、今のところは入口はイケメンということにしていますので。とりあえず1クールぐらいはそこで試して。

伊藤委員 いいですか。

山田委員長 どうぞ。

伊藤委員 「saku saku」でキャラクターの声が変わったということで、変わったことで具体的には何が。番組のカラーが変わっていくのか。

熊谷コンテンツ局長 前回、前々回までの「saku saku」は、実はうちのスタッフがしゃべっていました。その前の次から、実はお笑い芸人を入れていたんですが、そのときから横にいる武内もプロデューサーをやっているんですが、ポンモップという人形に息を吹き込む、面白い人形にしたいということで、ゲッターロボだったり、

ガンダムだったり、操縦士が代わることによって、人形の息が、いろんなキャラクターが生まれてくるというところを実はチャレンジしてみたく。1回目のカンカンという芸人から、今回は中堅どころの上々軍団という芸人さんに代えました。何が一番違うかという、上々軍団はコンビですので、しゃべっているのが写真をご覧になっていただくとわかるように、右側の鈴木啓太君、ジャケットを着ている彼がしゃべっています。左側がさわやか五郎君というタレントさんなんですが、今まではカンカン一人だったのですが、コンビですので、鈴木啓太君がゲストを呼んで滑ったときでも、五郎君がしっかりフォローすると。これは長くうまく芸人をやっているところ、M-1でもいいところまで行っている芸人さんですので、そのコンビネーションは、非常に間の取り方も含め、うまくて。視聴者からは、ズバリ言ってしまうと「テンポが非常にいい」「今までより見やすい」というお褒めの言葉をいただいています。まだ4月立ち上がったばかりですが、これからイベントとかも頻繁にやっていきたいと思っておりますので、そこでまた効力を発揮するのではないかと。また余談ですが、彼らがアップフロントという事務所に所属しておりまして、皆さんご存知のモーニング娘。を抱えている大きい事務所です。その、いわゆるほとんどの方がモーニング娘。のファンの方の中で、唯一2人がMCをしている。そこでマイナスイメージを持たずして、モー娘。をしっかりPRできるという力を持っていますので。よく言ってしまうと、人に嫌われないオーラを持っている二人組なので、そこを番組の中でうまくテンポよく噛み合わせて面白く見せていく。中高生を引き寄せていきたいなと思っております。

伊藤委員

一つのキャラクターで二人の声が聞こえるということ。

熊谷コンテンツ局長

ひとりのキャラクターは鈴木啓太君で、横に実はギャーでいるんです。ですからキャラクターは鈴木啓太君です。

伊藤委員 なるほど、わかりました。

山田委員長 これは7時から7時30分というと、ちょうど中高生の通学時間帯なんですね。そのために同日に、この遅い時間に再放送ということになったわけですか。

熊谷コンテンツ局長 そうですね。大体朝出られる方、中高生が本当はもっと遅かったんですが、出ている後に、「saku saku」が終わっちゃっているよという視聴者の方の声がありましたので、早めにさせていただいて。

山田委員長 逆に23時30分というと、親から「早く寝ろ」と言われる。

熊谷コンテンツ局長 逆にそれは大人の方がご覧になっていただいている。実は僕らの想定している中高生よりも、半々ぐらいは大人の、大きい子供たち、いわゆるアニメファンだったり、そういう方がよくご覧になっている番組ですので。以前出ていた子たちが、そういうファンが付きやすいので。その子たちもしっかりと見せてあげられるように。ターゲットを実は変えて、中身は当然変えられないですが、視聴者は変えても、うまく耐えられるように編成は2つ組んでもらうということで視聴者を。

山田委員長 他にございませんか。この写真はあれですか、こちらtvkの方でスチールは。これ、なかなかいい写真で。

玉村編成部長 ありがとうございます。4人を合わせるのが大変で。

山田委員長 他にありませんか。ないようでしたら、2 番目の視聴合評の方に移りたいと思います。

玉村編成部長 先ほど中村からも話がありましたように、皆様にご覧いただきたいとお願いした4月16日が、地震にかかった日でしたので、当日の放送はL字、情報が入った状況での放送になっておりました。またそういう特異な日でしたので、若干そういったことに触れてのベースにもなっておりますので、その辺をご承知いただいて。

視 聴 合 評

- 中村社長 L字は抜いた形ですね。
- 玉村編成部長 はい、そうです。
- 山田委員長 それでは、委員の皆さんからご意見を頂戴する前に、番組を担当された武内さんの方からお話いただければと思います。
- 武内プロデューサー 本日は厚木市です。今ご覧になっていただいたように、視聴者からの。普段は各ディレクターがロケハンをして、取材先に交渉して、道のりを決めて早朝から昼過ぎまでロケをやり、大急ぎでこちらに帰ってきて、夜の放送に間に合わせるという、本当に撮って出しでやっています。そこを醍醐味とした番組です。それもありつつ、今回は視聴者から寄せられた厚木市。特に頭のスイス菓子のポニイさんとかも、厚木市在住の才木さんご夫妻、さっきちらっと映っていましたけれども、実際ロケにもご同行いただいて、ご紹介いただきました。才木さんも番組をよくご存知でして、お店の味はもちろんのこと、店長の人柄みたいなものもわかった上で番組に推薦されていて。
- 山田委員長 どうぞお座りになって
- 武内プロデューサー 一見、レポート番組の感じもありますが、基本デビットさんがああいう方なので、ふれあいメインの番組なので、私ども制作側のスタンスからすると、この番組はバラエティという切り口で作っております。いつもと違う部分で言いますと、視聴者からのお便を元にした部分と、もう一つは冒頭で震災について一言触れさせていただきましたが、かなり、ことが起きてから時間のない中でしたので。早朝7時ぐらいに集合している時点で、主要部局の方に連絡しまして、まず実際に放送があるかどうか心配でした。社としての方針、どういう体制で臨めばいいのかというのを確認した上で、ロケを行うことになりました。最悪、中止もやむなしぐらいには思っておりましたので、実際に放送できたことは大

変うれしいのですが、やはり被害に遭われている方が実際にいる中でのバラエティという特性の番組でしたので、作り手としてはすごく複雑な心境の中でやっていたんですが。5年前もそうだったんですが、私はこの番組以外にも朝の「saku saku」という番組をやっていますが、月～金帯で日常的に放送されている中で、一度だけ震災の時期に、3日間ほど放送休止になったことがありました。その際に制作側もどういふふうに取り組んでいったらいいのかと考えたときに、少なくともバラエティなので、横浜駅西口とかで出演者に義援金ボックスを持たせて義援金を募ることではないとはわかりつつも、どうしたらいいのかと。そういう中で視聴者のメールが、「放送休止になって別の番組、報道がなっている中で、日常を奪われて恐くなった」みたいなメールをすごくいただきまして。そういうときに、「こういうときこそ、日常を思わせるような発信の仕方もあるんだな」と、視聴者の方に気付かされて。そういう経験もあったので、今回の事態ではこういうご挨拶もしたんですが、気遣いもありつつ、今何ができるのか。何もできないですが、何も発信しないで冒頭から取り組むわけにはいかない中で、出演者・スタッフが話をした上で、今回こういう形を取らせていただきました。編集されていましたが、冒頭とエンディングでも軽くもう一言二言、出演者が言わせていただきました。実際にMCのデビット伊東さんは、過去に新潟で震災があったときにも、自分でラーメン事業をされている方で、ラーメンをかなりのセットで物資に救援に行ったりとか、かなりそういうところでの意識も高い方ですので、あれこれもめ事もなく、そういう形ですぐ「わかりました」と受け止めてくださって、こういう態勢を取れたので、今回のような形になりました。

山田委員長

はい、ありがとうございます。「あっぱれ！KANAGAWA大行進」はテレビ神奈川を代表する番組の一つでもありますので、いろいろご意見等が出ると

思います。ではトップバッター、二宮さんからお願いいたします。

二宮委員

はい。あの場面は今お話しがあったように非常に感じまして。そういう意味では加工した番組よりもはるかに印象に残るだろうと。その一つですけど、地元の人が打合せなしに、どこかの女の子が、折り紙を紙に貼ったようなものを出したりとか。ああいうのもハラハラ感もドキドキ感もあり、いい印象を覚えています。むしろそういったものが無意識に、見ている人間が画面と一体感を持つという感じがします。全体的な印象としては、一般的な他の番組との差別化に自信を持っている感じがしました。今回の対応ということで熊本の地震への配慮ということで、あれはあれで私としては素直に聞いたし、特に違和感も不快感もなく。個別の内容分析ですが、地方局は地方局として、地域に深く差し込んだ番組作りがあるんじゃないかと思います。そういった意味で改めて番組を見ますと、確かに地方局としての素朴さ、手作り感、身近な素材対象、全体が良くマッチングしている番組で、これはもしかしたら長寿番組になるような感じがするぐらい、期待をしています。ああいうふうに作っていると、県内では素材はいくらでもあるし、そういった意味で、今後大いに期待したいと思います。もう一つは今の視点で言いますと、やはり工夫も、今後続けるという意味では必要だと思います。前回の「左義長」の番組審議がありましたが、あの時審議委員の皆さんが高く評価したのは、画面の場面場面を非常に丁寧に説明している。そういう意味では、たとえばコーヒーのロースト、ああいうのはなかなか日常的には見られないシーンなので、もう少しああいうところは、視聴者の知識欲をくすぐるぐらいの深く突っ込んだ取材があっても良かったかなと。少し消化不良を感じました。やはり最低限、出したシーンでの、視聴者の知りたい感を満足させるという意識は、常に持って番組作りをする必要はあるだろうと思います。加えてトランポリンがありまして、まさに時が時なの

で、子供が頑張っているのは元気をもらいますが、制作側の、見ている人に与える意識づくり、意識をもっともっと出しても、それはそれでいいんじゃないかと思いました。以上です。

山田委員長 ありがとうございます。今二宮さんの方からも焙煎のコーナー、あれは私もちょっと暗いかなと思ったんですが、それは「あれはこういう状況で」という反論もあろうかともいますが、まとめて最後にお問い合わせできればと思います。続きまして五大さんお願いします。

五大委員 選択をしたということで、私も3.11のときに舞台稽古をしていて、上演をすべきか上演をやめるべきかすごく苦しんだ、「ジャンジャン花月園」という公演がありまして。その選択は本当に、今震災が起こっている中で、これをやることの意味は苦渋の選択だったと思います。そこを選択しておやりになった。そしてそのコメントを冒頭に持ってきたということは、見ていて、ある姿勢を感じられたので、とても好感が持てました。ただ課題は残ると思いますが。後は、私はこの番組のファンなので、疲れるとよく見えています。だから彼らの好奇心が、カメラがグッと寄ったり引いたりして、一緒になって動いているようなドキドキ感があることが一番楽しいなと思っていますが。今日はちょっと違うなと思ったのは、歩いていて次の場面にパンと変わるときに、切れてしまっているような。最初のケーキ屋さんからコーヒー屋さんに行くところとか、つながりが言葉でつなげているんですが、場面的にピッと切られている気がして、なんかそこがないのかな、ということを感じました。地図を入れるとかいろいろあるのかなと思いました。あとは一つだけ、スイス菓子の理由をコメントしようとしたんですが、ちょっと食っちゃったので。スイス菓子をなんでやったかと話そうとしたのに、理由が聞けなかったんですが、あの辺は聞きたかったなと。

武内プロデューサー あれは何と言っても店長の人柄。ご指摘を受けたので。

五大委員 私はこの番組のファンなので、こういうふうには人の心が動く様子を、直に画面を通して伝えられるというのは、なかなかない番組なので、これからもこの心を大事に作っていただきたいと思います。

山田委員長 ありがとうございます。続いて林さんお願いします。

林委員 長く続いている番組ですし、人気もあるし。今日はたまたま視聴者対応に出ていませんけれども、視聴者対応の件数も一番多い番組だから、それを踏まえた上で敢えて注文だけさせていただきたい。まず最初に才木さんという方が出てきましたが、彼がメールを寄越して2件のお店に行ったわけですが、もう少し彼らとの話し合いを聞いたかった。要するに「いじる」って言うんですか、彼らをね。必要じゃないかと思ったんですね。それと訪ねた先の方たち、豆腐屋のおかみさんとかケーキ屋の親父さんもそうですが、この番組は往々にしてそういう感じがして、それはデビットさんのキャラクターなんだろうけれど、彼らよりデビットさんたちが前に出ようかというのがちょっと感じられるんですね。これは元々「ふれあい」とおっしゃいましたが、地域の人たちの頑張り、エネルギーを紹介する番組だと思うんです。程度はあるだろうけど、あまりそこにデビットさんが。今、五大さんがおっしゃったように、「なぜスイス菓子を」というところで、パッととっちゃったりね。あれはやりすぎかなと思ったんです。僕はあまり無理な笑いはあまり好きじゃないので、あまりゲラゲラ笑われても、こっちがしらけちゃうというのもあるので。デビットさんのキャラクターだと、前にもそんなことを申し上げた気がしますが、その辺は節度を持ってやられたらいいかなと思いました。

武内プロデューサー 同意見です。

林委員 それと、トランポリン教室の、細木さん、前のアナウンサーの話が出ていたけど、あれを見ていない方は面白さが全然わからないんですよ。

武内プロデューサー あれは不親切ですね。

林委員 面白さが全然わからないわけですよ。撮って出したからそういうのは難しいかもしれませんが、私は事情がわかりませんが、それをビデオで入れたりできなかったのかなど。難しいのであれば、それはそれでいいと思いますけど。それと、カレーのお店に行きましたよね。もうちょっとこだわりの店ということであれば、主人がもうちょっと話をしても良かったし、奥さんが大体あまり反応されませんでしたよね。そこもデビットさんのキャラクターなのかな、という気もしないでもなかったけれど、あそこへ行って食べたいなという気持ちになりませんでした。食レポの彼女のやり方がワンパターン化しているという、揶揄したようなあれがありましたけど、もうちょっとカレー店でのやりとりに、深みがあったらなと。それから、マイクロバス内でカレーを食べているところは必要なかったと思います。どういう意味であれを挿入したのか、敢えてお聞きしたいぐらいで、あれをなぜあそこに入れられたのか。それから、冒頭と最後に熊本地震のことについてお話をされましたけど、僕はそれ自体は良かったと思いますが、「何をするか考えたい」と女子アナが言うのであれば、tvkでも当然義援金の窓口なんかをおやりになるでしょうから、赤十字でもいいし、そういったところの紹介をすとか、そういうやり方があったんじゃないかなという気がしました。敢えて注文だけ言いました。番組が人気あるというのを分かった上で。以上です。

山田委員長 ありがとうございます。いろいろ質問のような、注文も出ましたので、これもまた、武内さんの方で最後にお話ししていただければと思います。続きまして伊藤さんお願いします。

伊藤委員 今回の撮って出しということは、この放送日に撮影して、編集して出したということでしょうか。震災から丸二日経っていないタイミング、しかも放送という中

で、震災への触れ方ということは、配慮を感じつつ、触れ方が悪いとかいいとかというのではなくて、「難しいものだな」ということを感じさせていただきました。そこから番組の中に入っていったので、いつものゆるゆるな感じに入っていくのは、ちょっと見ている気持ちが揺らぐというか、どう気持ちを切り替えて入っていったらいいのかなというところが、見ている自分自身への問いかけがありました。これはやっている側は、何倍も感じられていることだと思います。その転じ方とかは、デビットさんの芸の幅で鮮やかに見せられたら、それはそれでよかったのかなと。アナウンサーの相方の方が、何度か替わられる中で、久本さんでしたか。ちょっと私は、この方の今回の放送にはあまり満足してなくて。なんとなく期待してしまうのは、アナウンサーの方がいらっしゃっていて、芸人さんがいらっしゃるということは、ポイントではいじられながら、ポイントではしめる。それを期待しちゃうんですね。数年前にたしか、わりとベテランの三浦さんという女性だったと思うんですが、その人のやり取りは、しめるところはしめ、崩れるところは崩れてという、そのギャップが非常に面白くて、その頃の方が面白かったです。そういうふうにいるいろいろ相方も代わっていく、本当に生き物みたいな番組ですので、その都度その都度の工夫や演出や背景というのは、本当にあってこそその生に近い番組だなという。その生さは感じました。もう一つ、今回は地図を持って歩いてくださったのですが、ローカルすぎて神奈川県はどこにあるのかというのが、今ひとつ頭の中にちゃんと愛甲とかが入っている人ではないと、わからない。足柄も同じくですが。「神奈川県の中のここ！」みたいな感じで。地図の使い方も、最後にそのエリアの「カレー屋さんはこちら、トランポリンはこちら、なんとかはここ」みたいなものを、なんとなく頭の中にマップが復習できるような、そういう指さしをしてくださると。結局、神奈川県はどこかぐらいしかわからなくて。変な脚色とかテロップで飾り立てな

いのが信条のこの番組ですので、なんかそのあたりをきれいに収まるように、情報的な意味だけです。情報的なところだけで、結局煩雑で、「なんでもいいや、神奈川県はどこか」じゃなくて、この土地の、次は「いで始まる伊勢原」とかという話に、バトンがきちんとつないでいけるようなイメージがあるといいなと思いました。

山田委員長

ありがとうございました。続きまして白石さん。

白石委員

最初と最後に九州の地震に触れましたが、バラエティ番組ですしニュースではありませんので、あの程度であったというのはよかったです。かといって、まだ全体がわからない中で、募金などのお見舞いもまだ早いと思いますので、あの程度で。ただ入れたことは良かったと思います。看板番組ということでみんな喜んで見ていると思います。情報は視聴者からいただいて番組を構成すると。次はどの地域を捉えて、いろいろワクワクする部分もありますので、このぐらいは投書が来ているんだと、封書の山とか、そういうところを是非映して。是非投書に参加してくださいみたいなのところも、一つ入れたらいいのかなと思いました。林さんがおっしゃったように、500円のカレーからバス内のカレーですが、デビットさん以外は皆黙々と食べていて、暗くて会話もしない。カレーを食べているのはわかっているんですが、ゲラゲラと笑って、楽しそうに食事をしてもらえればと思いました。ただタイミングは、500円の後に食べるので、いらないのかなと林さん同様、私もそう思いました。それからプレゼントは豪華だなと思いました、豆腐の3箱ですか。なかなか立派なプレゼントを送っているんだなど。私も応募しようかと思ったぐらいです。そんなところですよ。

山田委員長

ありがとうございました。続きまして吉川さんお願いします。

吉川委員

私は、この番組は始めて見ました。その日に撮ってその日に映すという、粗く

でも撮り切り感のある演出っていうんですか、それはとても新鮮な手法だなと思って拝見しました。その日に映すということでリアリティがあって、震災があったことを受けて、冒頭と最後に震災に対するメッセージを寄せていたというのは、私としては好感が持てました。ただ、どなたかもおっしゃっていたように、冒頭の挨拶も最後の挨拶も同じ内容で、「自分なりに何ができるか考えたい」と、同じことを二度繰り返すのは、あまりにも深さが無いというか、最後には一日も早い復興とか、余震が早く収まるようにということだけに止めてもいいし、同じことを二度繰り返すというのはいかなものかなど。まさにアナウンサーの方の、もうちょっとあったらなということを感じました。それから粗くて撮り切り感があるのは良さでもあるのですが、ちょっと気になるカメラワークがいくつかありました。ひとつは、どなたかもおっしゃっていたように、地図をせっかく見せているのに、「神奈川県中央です」と言ったのも、すごく早いタイミングなので、一瞬見せたらすぐ取って2枚目の地図にしちゃう。もうちょっと止めて視聴者の頭に入るぐらいの寄りとか、鮮明な画像で映してほしいのに、動いたままで、パッとアナウンサーが取ってしまう。2つ目のより詳細な地図も、手が動いちゃったのか、寄り方が甘いのか、よく見えないうちにまた終わってしまうというような、中途半端な情報提供。見せるんだったら見せるで、地図がしっかり画像に映るように、そこは撮り切り映像でも、手持ちのカメラかもしれませんが、しっかり撮ってほしいなと思いました。それから店の外から中、建物の中に入っていくときの照明度が、パンといきなり明るくなっちゃうんですよ。とてもそれが違和感があって、もう少し自然に。照明の関係はあるにしても、逆光とかいろいろあるのはわかるんですが、すごく人工的な感じがして。つながりが、こう、私は専門家じゃないので、伊藤先生がその辺は詳しいのかもしれませんが、いきなり目つぶしをかけられたように、大げさに言うんですけど、映

像に切り替わっちゃうのは、もう少し何とかならないのかなと思いました。デビット伊東さんの話が、やはり私も、スイス菓子のお店の人が、「なぜスイス菓子か」という問いに一生懸命応えているのに遮ったことは、一番気になったし、久本さんもデビットさんも、デビットの方は才木夫妻に対して、久本さんは妻田カレーの人に対して、夫妻と紹介していながら、「結婚されているんですか」と、夫妻を紹介した後に聞くんですよね。これって人の話を聞いていないでしょうと。もうちょっと作り込みのない、脚本のない生感の番組にしろ、やはり対象者の話を真剣に受け止めるということはやってほしいなど。特にデビットさんが暴走しちゃっても、久本さんがアナウンサーなんだったら、そこら辺をきっちりつないでほしいなど。さっきの途中で話を食っちゃったときも、久本さんが「だから、なんでスイス菓子なんでしたっけ」と蒸し返してくれてでも、少し押さえてくれたらなという気がしました。それからスイス菓子の店とかお豆腐のところでもそうだったと思うんですが、お金をきちんと払って取材対象の物を買っているというシーンが出てくるのは、私はすごく好感が持てて、当たり前「食べさせろよ」という感じではないのが、なんかいいなと思いました。対象だったスイス菓子の店主の方は本当に飄々としていて、取材対象としてお話を聞いていて面白かったんですけど、それに対するデビットさんが、林委員もおっしゃっていましたが、あまりにも笑い転げちゃって大声で笑われると、かえって見ている方がしらけてしまうなというところがありました。南蛮屋ガーデンのシーンで、「メールのお便り紹介」のコーナーで、会議室みたいなところに移って行ったところだったと記憶していますが、デビットさんが、これは私の勘違いかもしれませんが、鼻か歯をほじるシーンがそのまま映っているんです。ちょっと一瞬ですが、それは画像としては、いくら撮り切りとは言っても、気になった映像だったなと思いました。これは林委員と、他の方とどな

たか忘れましたが、意見が違うのは、帰りのマイクロバスのシーンは、私は結構好きで、編集後記みたいで、どんな人たちが作っているんだろうというのが、かえって、逆にシュールにひたすらカレーを食べ続けている中で、カメラマンの人やメイクの人の顔が見えて、さりげない編集後記みたいな企画は面白かったなと思いました。これは、ずっと同じパターンだとつまらないんでしょうけれども、こういう編集後記的な、しゃれたコーナーはあっても私はいいかなど思いました。これは私だけの感覚の違いかもしれません。ただの情報番組ということではなくて、やはり撮り切り感はいいなと思いました。質問が1点あって、やはり撮り切りとは言いながら、演出されているんだろうなと思ったのは、コーヒーのところの2階のデザートビュッフェのシーンが後で紹介されていたので、それはちゃんと撮りながら後、編集の場面だけが使われていたので、やはり1台のカメラで撮り切りというよりは、何らかつないでいたりとかあるんですよね、というのが後で伺いたい点です。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。続きまして布施さんお願いします。

布施副委員長

いつも言うんですが、土曜日の夜のゴールデンアワーにこれを見るというのは、大変なんです。我が家では女房の方が力があって、全部その日の番組はチェックしますから。私は仕事で見るんだから、見る権利があると。ただ自分の趣味で見ているんだからと。これは録画を撮ったんですが。ゴールデンアワーに放送する番組のコンテンツというか、思想性を考えた場合には、ちょっともったいないんじゃないのと、本当は思っていたんですよ。私は神奈川で長年大学教員をやっていたということもあって、神奈川のいろいろなところから来る学生がいて、そのときに「お前の町はどういう町なのか、言ってみろ」ということを聞いて、そこから問題に入っていくということからやっていたんです。たとえば「厚木といたらどういう町？」と、いろいろな面から考えて、その他

の学生や先生方に紹介していました。たしかに豆腐屋さんがあったり、カレーを食べたりしていたけれど、それが厚木ではないです。厚木というものをよくわからない視聴者にグッと明らかにしつつ、なおかつそこで暮らしている人々だとか。私はそういうことで、個人的には不満足だと。うちの奥さんも「厚木に行ってみたいなんて思わないわよ」という意見が出ました。それなら行き当たりばったりに映しているのかなと思ったら、さっき言ったように、紙でできているから、企画をして、企画通りに番組を進めようと。ただ冗談を言って笑っているばかりの番組じゃない、というのはわかったんですが。だとすると、原点に戻って、どういう企画があるのかと。そういうことが直接出てくる場合と間接的に出てくる場合とあると思いますが、何かないと、見ている人はものすごく不満になってしまう。厚木のどういうことを言うのかと。私の教え子が厚木で商売している人がいるけれど、「あっぱれ！KANAGAWA大行進」ですので、それなりに表していくのかという、コンセプトやフィロソフィーがないといけないと思うから。その辺のところがすごく薄いから。終わってみると、何人かの人がこういう話をしたとか、あそこの店がうまかったとか、近所の人あの店は知っているけれども、まさか我が家から電車を乗り継いで、車でそこに食べに行くほどのことはないだろう、と思っちゃったんです。全体としてはもうちょっと、どういう番組であれ、「あっぱれ！KANAGAWA大行進」ですから、その辺のコンセプトを捉えた上で、それぞれの地域の情報を出していくと。それがラーメンであってもカレーであっても、地域社会の中で生きているんだなど。最終的には「神奈川って多様性があるね」と。そういう多様性のある地域に我々は生きているんだと。「よし、何かあったら行ってみよう」ということになれば、これは成功するんじゃないかと思います。そういう構成の原点があって、それが紙になって出てくると。そういうものだったら、必ずしも成功しなくても、それは

番組としてはどんどん発展して行って、いい方向に行くんじゃないかと思いません。「あっぱれ！KANAGAWA大行進」の基本コンセプトが、どこにも見当たらないという番組では、ちょっとつらいんじゃないかと、見る人は。こういうテレビ神奈川を代表するゴールデンアワーの番組は、もう少し腰の強い番組を出してほしいと、大げさですけど、私はそう思いました。見終わってから私と女房で合評をして、「私は見たい番組があったのに、見損なって。どうしてくれるのよ」という話にはならず、無事終わったと。我が家の家庭のこともご報告して私のコメントに代えます。

山田委員長

はい、ありがとうございました。この「あっぱれ！KANAGAWA大行進」は、先ほども話しましたが、テレビ神奈川を代表する番組の一つであって、大変、毎回楽しく拝見させていただいております。司会、進行役とも慣れている方ですので、安心して番組を見ていくことができます。ただ安心して見ているということは、一方ではマンネリ化ということも、言葉にして大変失礼なんですけど、そういう感じが今回の番組ではいたしました。マンネリ化というのは、手慣れた手法を使っているんですね。後でお話しますが、手慣れた手法を使っているということは、言葉が大変悪くて失礼なんですけど、雑に使っているというイメージも湧いてきます。先ほど「左義長」という番組を前回やって、それは大変丁寧に作られていたということ、何人かの方も話しておりましたが、それとは対照的な、非常に手慣れた手法で作っちゃっている、というのが気になりました。それは、たとえばメールを送ってくれた方、あるいはケーキ屋の男性の方。せっかくああいうところに出ているんでしたら、簡単なプロフィール、そういったものを本人の口からしゃべらせるような手法をとっても良かったのではないかと思います。カレー屋の夫婦もそうですね。「ご夫妻です」と紹介しているにも関わらず、先ほど吉川さんも話していましたが、同じことを聞

いているということで。これはやはり出演している方に対しても失礼ですし、視聴者に対して間違った情報を平気で流している、という感じがいたしました。

それと、コーヒーを焙煎しているところもありましたが、あれはちょっとライトが暗くて、もうちょっとははっきり映してほしかったです。明るくして見せることによって、興味のある方はそれなりの関心を持ってくれると思います。それと雑さの極みと言いますか、これは時々ディレクターですか、アシスタントディレクターが地図の紙を出す、あれで見てやっている。出た地図が、神奈川県の実地にあるということで厚木を説明していますけど、あの地図では全く分からないです。あれはやはり、神奈川県の実地というところを出すのでしたら、最初に大きな画面で出して、それは後でどういう処理をするのか、技術的な面は私にはわかりませんが、やろうと思えば可能だと思いますので、そういう地図をきちんと出して、「神奈川県の実地の辺にいて、今いるカレー屋はここだ」「厚木の実地の辺にある」ということを、きめ細かく紹介するのが、この手の番組の一番重要なところだと思います。やはり一番雑さの中で、厚木というのを扱っているのに、厚木の特殊性というか、地域性が全く伝わってこなかったですね。これはやはり厚木のことをやるのでしたら、せっきやく一時間近い番組ですので、厚木のことでも概要を押さえてやるべきだったかなという感じがいたします。それとデビット伊東さんが、あまり意味がないところで笑っていて、これははっきり言ってしりました。せっきやくケーキ屋の職人さんですか、男性の方がいろいろ話しているのに、それを遮って笑っている。最初に、平成28年熊本大震災についていろいろコメントをしているんだしたら、あの中でああいう意味のない笑いは、全く必要ないですね。私は、ちょっと不謹慎だなという感じが持ちました。二人が最初に、言葉でああいうことを言う必要もないです。あれはテロップで流して、平成28年熊本大震災に哀悼の意を表すると

か、そういうことだけでやって、彼らが言葉で出す必要は全くないです。そういう言葉を出しておいて、へらへらした感じの方がもっと、その意義を下げていますね。おちゃらけているような感じもしました。これは先ほどから話しているとおり、テレビ神奈川の代表的な番組でもありますので、ちょっとマンネリ化というのを脱皮して、ちょっと新機軸の番組に持って行ってもらいたいなという感じが、今回はものすごく感じました。以上です。他に言い足りない方、言い忘れた方がいましたら。はい、どうぞ。

白石委員

お便りコーナーというのがありまして、コーヒーの部屋を借りて、このコーナーをやるんですが、幼児の絵を紹介するんですが、こうやって映らないです。折れていたし、光で。幼児の、幼稚園だろうな、もしかしたらもっと小さい子が描いたんでしょう。これを出すには、両親とかが封書に入れて、多分投書しているんだと思います。それを紹介コーナーで、この番組で格付けしているわけですから、きちんとして見えるようにして、投書した子どもの名前をテロップでも出してもらって、記録に残るようないいお便りコーナーにしてあげたら、もっといいと思います。バインダーにはさんでも何でもいいので、これじゃ見えません。非常に残念なコーナーだなと思いましたので、ご一考いただければと思います。

山田委員長

他に付け加えたいこと等ございますか。ないようでしたら、武内さんから反論したいことは山ほどあるかと思いますが、これだけは許せないということも話していただいて。

武内プロデューサー

いえいえ、そういうこともないんですが。全体的に検討と言いますか、やはり出演者、スタッフ、技術スタッフもそうですが、そこの気遣い。あとは映っている対象者への気遣いがまだまだ足りないのかなと感じたので、そこは改善しなくてはいけないと思いましたし、今の幼児の写真をちゃんと撮るということに

対しても、撮って出しなので、撮ったらそこでおしまいなので、リメイクはしない中で動いておりますので、その分やはり事前に、カメラを回す前に「ここはきっちりやれよ」「ここは絶対逃すな」とか。ロケでアサヒビールさんがスポンサーなんですけど、道中を歩いていると、他の飲料メーカーさんの自動販売機とかがあると、販売機の横にでっかく「キリン」とか書いてあると、それをアシスタントディレクターが同じ色の布を貼ったり、マグネットで貼ったりとか、他社のロゴが映らないように配慮はしているんですが。そういう気遣いはいくらけれども、今言った対象者への気遣いが、もしマンネリ化の中でそういうものがおそろそかになっているのであれば、そこはもう一回、手綱を締めなおしていったらなということを、今お話を伺って思いました。布施委員のご指摘があった、「その回の町のことがわからない」というところですが、ちゃんとやれている回もあったので、もどかしいんですが、番組の冒頭で地図を出す前に、たとえば「綾瀬市はこういう町で、こうでこうで」とあって、それで「地図です」という段取りを持ってやっていた回もあったので。それだけに、毎週の放送の中できっちり出す中で、応用しないとそういう風にとらわれてしまう印象の回を作ってしまうと思いますので、そこはきちんと取り組みたいと思いました。

山田委員長 武内プロデューサーからいろいろ説明がありましたが、何かまだ伺ってみたいことはありますか。

武内プロデューサー 吉川委員がおっしゃられた、編集部分だったんですが。あれはデビットさんがコーヒーのことをやっているときに、すでに久本アナはいなかったんですが、コーヒーが落ちるのを待っている間に、久本アナが隣のショップの2階のスイーツのバイキングに、先に乗り込んで行って、「あれ？久本がいない」と言っていて、久本さんがケーキバイキングを食べているというのが落ちだったんですが。あまりに時間を費やしてしまって、あそこまで全部本編で使うと、10分越

えみたいな事態に現場で陥ってしまって。ただ久本さんがいないというシチュエーションはシチュエーションで放送してしまったので、ネタバレではないんですが、「久本さんは、ちゃんと南蛮屋さんにいたんですよ」という既成事実を作るみたいな感じでの、あのエンディングになってしまったので。滅多にああいう感じで編集を入れて放送することは、ただでさえ撮って出しと言っているのではなかったんですが、ああいう処置をとらせていただいたんです。あれも、どちらかと言うと、普段の放送形態からするとかなり異例でして。そうはいっても中途半端なので、年に5～6回「増刊号」という名の、総集編を放送する回がありますが、そこで改めてフォローさせていただく感じで、この番組は結構回っているの。見慣れている人は「増刊号で、あのへんな件は、あそこでフォローするのかな」と、期待を抱いて増刊号の回を待っていただく方もいるんですが、その日たまたま見た一見さんみたいな人も対象に、意識して番組を作っていくといけないといけないので。そこは課題であり、取り組むべき問題だと思いますので、それは努力して頑張っていきたいと思います。

山田委員長

他の方はよろしゅうございますか。この「あっぱれ！KANAGAWA大行進」のような、いわゆる町歩きの番組はたくさんあります。そういったものに、こうして肩を並べてやってきたという自信もありますので。ただ、先ほど話しましたように、人気番組だということで、どうしてもマンネリと言うんですか、そういったものが出てきますので、ときにはメンテナンスをしていただいて、少しずつ新しくギアチェンジしていただきたいなと思っております。これからも期待しますので、よろしくお願ひします。続きまして3番目、その他報告事項に移りたいと思います。

玉村編成部長

ありがとうございます。視聴者対応ですが、4月4日からの半月分のデータでございます。電子メールは1860通、電話は229件です。いくつかのお問合

せ、ご意見を抽出しております。「かながわ旬菜ナビ」。新しく始めました「猫のひたいほどワイド」に関するご意見。それから前に一度ご覧いただきました「LOVEかわさき」に対するご意見。長くやっております「クルマでいこう！」に対するご意見。これはあまりご覧いただいたことはないかもしれませんが、水曜ゴールデンにやっています、洋楽の「ビルボード」。中村真理さんという方が番組誕生以来、変わらずDJをやっているから、その辺に関するご意見です。それから大変お恥ずかしい話ですが、マリノスの番組に関してテロップミスがございました。その辺のご指摘、お叱りのご意見です。各番組の数字をグラフ化したものが次のページにございます。「問い合わせメール」と書いてございますけれども、厳密に言いますと、プレゼントへの応募等々すべて含んだ数字でございますので、先ほどもおっしゃっていただきましたような「あっぱれ！KANAGAWA」へのプレゼント等も、こういったものに含まれておりますので、そういったプレゼントの多いものに関しては大きな数字が出ております。たとえば「ファイト！川崎フロンターレ」は、ここにございませぬが、これはむしろ葉書の方で投書が来ていますので、こちらのメールフォームには来ていません。こういった状況がございます。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。事務局より視聴者対応についてのご説明がございましたが、これについて何かご意見ご質問等ございますか。よろしいですか。それでは、前回の番組審議会の報告に移りたいと思います。

議 事 報 告

玉村編成部長

大変恐縮でございます。今ご覧いただいたのは、「猫のひたいほどワイド」の中に、私共が番組審議会の報告用にVTRを作って納品するんですが、その納品した元をご覧いただきました。これに放送でアナウンサーがコメントをかぶせて、テロップをかけるという。今までずっとこれでご覧いただきましたが、

ちょっと手違いがありまして、大元の素材をお見せしてしまいました。番組の中では、委員の皆様から頂いたコメントを今の尺に合わせて、コメントを流しております。これまでよりも結構長く、山田先生の「250点」というコメントも入っています。申し訳ございませんでした。

中村社長 「猫のひたいほどワイド」じゃないものを持ってきちゃったんですね。申し訳ございませんでした。

山田委員長 ありがとうございます。それでは、本日の議題はこれですべて終了いたしました。何か言いたいこと、言い忘れたことは、よろしいですか。

伊藤委員 「座頭市」は。

玉村編成部長 結構あります。2時間の枠で、55分2話ずつです。半年では終わらないです。

吉川委員 一つだけ、わがままな願いなんです。視聴日というか、今回審議会とかなり近接していたんですが、できればもう少し余裕があれば、ありがたいことはありがたいです。すみません。見られる時間がちょっと限られているので、申し訳ありません。

玉村編成部長 申し訳ありません。

山田委員長 他にございませんか。では事務局の方から連絡事項をお願いします。

玉村編成部長 次回のご案内ですが、こちらに書いてございますように5月17日火曜日2時にお出でいただきますよう、お願いいたします。会議室はこちらの2階の第1会議室です。次回の視聴合評につきましては、新しい番組がいくつか始まりましたので、そのうちの一つバイクの番組「Ride & Life」という番組をご覧いただいて、ご批評賜りますようお願いいたします。今回は、もしよろしかったら5月7日土曜日夜10時半からの30分です。これをご覧いただきまして、ご批評をいただけますようお願いいたします。

山田委員長 それでは、本日はこれにて閉会とさせていただきます。ありがとうございます。

